

お袖塚（おつむぎづか）古墳

お袖塚古墳は、JR 内房線袖ヶ浦駅より直線以南東に 2.0 km の距離にあり、小櫃川を南に臨む標高約 32m の台地上に位置しています。

当古墳は、昭和 51 年の袖ヶ浦町埋蔵文化財分布調査まで名称がつけられていませんでしたが、「この古墳からは夜ごと機織（はたお）りの音が聞こえてくる」という伝説があり、「オツムギヅカ」と呼び習わされたことから、この名称が用いられるようになりました。

当古墳は、昭和 53 年 4 月古墳としての重要性が認められ、袖ヶ浦町（現袖ヶ浦市）指定文化財を受けるとともに、古墳の適切な保存と歴史的な位置づけを明確にするために墳丘測量と周溝の一部発掘調査を行いました。

発掘調査の結果、墳丘の形態は円墳で、墳丘の高さ 4.0m、規模は南北径 28.1m、東西径 27.9m、周溝の外縁まで規模は 44.0m であることが分かりました。また、周溝の外縁北側から東側には、古墳を取り囲むように周堤（しゅうてい）を確認することができ、周堤を含むと古墳径は 61.0m に及ぶことが分かりました。

また、造営時期については、周溝から出土した大刀・靫（とも）※1・靫（ゆき）※2 などの武器・武具を模（かたど）った形象埴輪※3 や筒状の円筒埴輪※4、坏・高坏などの製作時期から 6 世紀頃と考えられます。

※1 弓を射る時左手首の内側につけることで、矢を放ったあとで弓の弦が手にあたることを防いだ道具。

※2 弓の射手が矢を入れるために背負った細長い箱型の道具。

※3 動物・人・家など、ものを模った埴輪。当古墳から出土した靫・靫などの武器・武具を模った形象埴輪は、器材に分類され、被葬者を邪気から守るとされています。

※4 円筒埴輪は、埋葬主体部を囲み、下部を埋めるように囲むように墳頂部に立てて並べた埴輪。古墳の部分あるいは全体を神聖な場として画する役目をもったものと考えられています。



お袖塚古墳の全景



お細塚古墳出土遺物（円筒埴輪）